

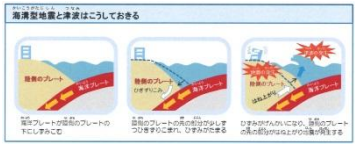
「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	岩国市立河内小学校	実施時間	学級活動
-------	-----------	------	------

1 ねらい

- 地震についての学習と緊急地震速報対応行動避難訓練とを連動させることで、実際に地震が起きた時に安全な行動をとることができるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 東日本大震災を振り返る。 ・地震と津波の恐ろしさ (VTR) 2 地震と津波について知る。 ・震度 ・活断層型 ・海溝型 ・県内の主な活断層 3 地震や津波から命を守るための備えについて考える。 ・建物内 ・歩行中 ・海岸付近 	・公開されている地震や津波の映像を見せ、地震と津波の恐ろしさを再認識させる。 ・「防災教育テキスト（地震・津波）」を読ませる。その際、震度等の用語を押さえ、海溝型地震と津波の原理についてはイラストで説明する。 ・K Y T資料のイラストを使って、屋内、屋外で起きると考えられる危険性と、身を守る体勢について意見交換を行わせる。 	・映像にあるような災害は、決して他県だけのことではなく、岩国においても起こりうることを押さえる。 ・基本的な内容だけを教えることにとどめる。  ・地震は在校中に限らず、一人での時にも起きる可能性があることを踏まえ、自分の命は自分で守る方法をしっかりと考えさせたい。最後は『防災教育テキスト』に書かれている安全な体勢について押さえておく。

緊急地震速報が出たら、どんな行動をとったらよいか？～緊急地震速報対応行動避難訓練～

4 訓練説明放送を聞く。 5 安全な体勢をとる。 ・机の対角の脚を押さえる  6 避難行動を開始する。 ・お … おさない ・は … はしらない ・し … しやべらない ・も … もどらない 7 運動場に整列する。 8 県学校防災アドバイザーの指導講評を聞く。 9 教室で避難訓練の振り返りをする。	・児童に机の下に潜るよう指示する。 ・担任は、避難経路確保のため扉を開ける。 ・地震収束後、メガホンで避難指示を出す（教頭）。 ・担任は児童を先導し、事前に定めている避難経路に従って運動場に避難する。  ・「お・は・し・も」のキーワードについて振り返りをさせる。	・低学年には事前に説明しておく。 ・地震の効果音により不安な声を発する児童がいる場合は、「大丈夫」「心配しないで」等の声掛けを行い、落ち着かせる。 ・講堂等で近くに机等がない場合、担任は「上から物が落ちてこない」「横から物が倒れてこない」場所を瞬時に見つけ、そこで体勢を低くする指示を出す。 ・「余震」を想定して、周囲の状況を注視しながら建物から離れて避難させる。 ・避難誘導職員は、安全に避難できるよう玄関前、階段、坂道で声掛けを行う。 ・全員が避難したかどうか、避難誘導者は新校舎1階と2階、旧校舎の最終点検を行う。 ・日頃から整理整頓が大切だということを押さえる。
--	---	---

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	平生町立佐賀小学校	実施時間	学級活動 等
-------	-----------	------	--------

1 ねらい

- 地震や津波などによって起こる家屋の倒壊や物の落下などの危険について理解させ、早めに安全な場所に避難する方法について考えることができるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 本時の学習内容を知る。	地震や津波について、聞いたり、見たりしたことを発表させる。	- ニュースや新聞などで知ったことを発表できるようにする。 - 児童の発表に応じて、映像資料や新聞記事を紹介することにより、被害の大きさ等を確認する。
2 地震や津波の発生メカニズムについて知る。 - 地震の2つのタイプ - 地震と津波の関係 - 地震や津波の恐ろしさ	地震や津波の起こる原因を考えさせる。	※「防災教育テキスト」P1の活用 「地震と津波の関係」や「県内の主な活断層」に関する資料を提示し、地震や津波の発生メカニズム等について意識を高める。
3 地震や津波から命を守る方法を話し合う。 - 普段から心がけること - 地震が起こったときに気を付けること - 津波が起こったときに気を付けること	地震や津波から命を守るための対応方法を考えさせる。	※「防災教育テキスト」P2の活用 - 地震、津波別、発生の際にいた場所別、発生前、発生中、発生後別などに整理できるワークシートを用意する。 - 子どもの発言を取り上げ、実際に行動することができるかどうかを問い、安全に対する危機意識を高める。
4 避難訓練で気を付けることを話し合う。 - 自分の命を守ること - 指示をよく聞くこと - 落ち着いて行動すること	KYT資料を活用し、理科室で学習しているときに地震が発生したら、何をすればよいかを考えさせる。	※災害安全KYT資料④「理科室での地震発生」ワークシートの活用 - 校内避難訓練について、目的や内容、方法等を知らせる。 - 地震発生時の心がけについて、グループで確認する時間を確保する。
5 学習を振り返る。	今日の学習で、新たに知ったことや考えたことを、ワークシートに記入させる。	学習の振り返りをするためのワークシートを用意する。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	防府市立向島小学校	実施時間	学級活動（３・４年）
-------	-----------	------	------------

１ ねらい

- 南海トラフ巨大地震について理解させ、地震・津波のときに命を守るための備えができるようにする。
- 地震・津波対応避難訓練の心構えについて考えさせ、適切な行動がとれるようにする。

２ 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
１ 南海トラフ巨大地震について学ぶ。 (1) 「防災教育テキスト」で地震の発生する場所、大きさ、津波の高さについて知る。 ・最大震度６強 ・最大５ｍの津波 (津波到達時間最短９２分) (2) 山口県津波浸水想定図で向島の浸水箇所を確認する。 ・浸水箇所 ・学校の位置 ・自分の家	・地震や津波について知っていることを発表させる。 ・「テキスト」＜１～３年生用＞を読ませ、大切なところにアンダーラインを引かせる。  ・向島の津波浸水想定図を見せ、どのあたりが浸水するか確認させる。	・津波の画像や動画を見せて、津波の怖さが分かるようにする。 ・震度６強の強さや、５ｍの津波の高さを、実感できるように具体的に示す。 ・津波到達までの時間に長短があることを押さえる。
２ 避難の方法を知る。 (1) 「防災教育テキスト」を読み、身の安全を守るためにすべきことを考える。 ・落下物から身（特に頭）を守る ・落ち着いて行動すること (2) 「防災教育テキスト」を読み、すばやく避難するために大切なことを考える。 ・おさない ・はしらない ・しゃべらない ・もどらない	・避難訓練があることを知らせ、どういうことに気を付けたらよいか意見を出させる。 ・「テキスト」＜１～３年生用＞を読んで確認させる。 ➤児童から出た意見を、「お・は・し・も」にまとめさせる。 	・電子黒板やパソコンで、津波浸水想定図を拡大して見せ、自分の家がどのあたりかを確認させる。 ・５ｍの津波の危険がある場合は、錦山に避難する必要があることを確認する。 ・「机の下に潜る。」「頭を袋などで守る。」を実際にさせてみる。 
(3) 「防災教育テキスト」を参考にして、津波のとき、どこに避難したらよいかを考える。 (4) 避難場所では、並んで静かに指示を待つことが大切であることを知る。	・向島の地図で、２次避難場所までの経路を示す。 ➤１次避難場所【運動場南側鉄棒前】 ➤２次避難場所【錦山】 ・避難場所での人数確認の大切さを教え、そのためにどうすればよいかを考えさせる。	・津波到達まで時間がある場合は、落ち着いた行動が大切なことを再度押さえる。 ・避難訓練の日時を再度示し、心構えの確認をする。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	宇部市立吉部小学校	実施時間	学級活動 等
-------	-----------	------	--------

1 ねらい

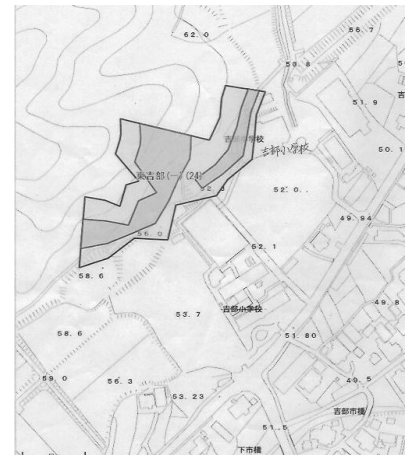
- 地震発生時の基本的な避難行動を習熟させるとともに、防災に対する知識を深めさせ、子どもたちの防災対応能力を高める。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 避難訓練 (1) 効果音（地震） ・児童は指示を聞く。 ・机の下に入り、机の脚を持つ。 (2) 効果音が終わって ・机の下に入ったまま待機する。 (3) 20秒後 効果音 (4) 効果音が終わって (5) 効果音が終わって1分後 ・教室の後ろに整列する。 (6) 避難開始 (7) 安全確認 ・運動場に集合する。 (8) 避難訓練の振り返り 2 避難訓練事後指導 ・緊急地震速報を聞く。  ・「防災教育テキスト」を使い、地震・津波及び土砂災害について学習する。	・すぐに机の下に入り、机の脚をななめに2本しっかりと持つよう指示する。 ・余震に備え、机の下でそのままの姿勢を維持するよう指示する。 ・再度、机の脚を2本しっかりと握るよう指示する。 ・次の余震に備え、机の下でそのままの姿勢を維持するよう指示する。 ・机の下から出て、落ち着いて教室の後ろに並ぶよう指示する。 ・児童を運動場へ避難させる。 ・整列をさせ、点呼をとる。 ・教師全員が避難訓練の感想を述べる。 【NHKホームページを活用】 ・緊急地震速報のチャイム音を聞かせる。 ・緊急地震速報の放送例を聞かせる。 ・緊急地震速報の解説を聞かせる。 ・地震から命を守るための備えについて、「防災教育テキスト」で学習させる。 ・土砂災害から命を守るための備えについて、「防災教育テキスト」や山口県土木災害警戒避難体制図で学習させる。	〔想定する状況〕 授業中、強い地震が発生。本震が始まって10秒後に余震が襲ってくる。校舎内にいると危険だと思われるが、本震により電気が使えなくなり、放送が入らない。そこで、担任の判断と指示により、子どもたち全員を直ちに運動場へ避難させる必要が生じた。 ・余震が収まるまでは、帽子をかぶり、机の下で待機させる。 ・体育館の場合は、中央に集まるよう指示をする。 ・静かに整列させる。 ・上靴のままで避難させる。 ・人数確認をし、報告させる。 ・簡単な振り返りをさせる。 ・視聴覚室に全校児童を集め、スターボードでプレゼンテーションを行う。 ・「緊急地震速報受信時対応行動訓練」 http://www.data.jma.go.jp/svd/eev/data/nc/kunren/kit1.html とNHKホームページ「緊急地震速報」を聞いた後に、どのように避難するかについて学習させる。 ・「防災教育テキスト」から、プレゼンテーションを作成し、全員で避難方法などを考えさせる。 ・吉部小学校が「土砂災害特別警戒区域」にあることから、土砂災害の危険が迫ったときの避難行動について教える。 



山口県土木災害警戒避難体制図



- 「防災教育テキスト」を使い、避難場所や非常持ち出し品について話し合う。

- 避難場所や非常持ち出し品を確認するため、「防災教育テキスト」を例に考えさせる。

〔家庭学習として〕

- 家族と一緒に確認させる。
- 災害が起きたときの避難場所と非常持ち出し品のチェックをし、担任に提出させる。

- 災害時の避難場所や非常持ち出し品を家族と一緒に話し合うことで、家庭での意識向上を図る。

家族でかくにん！ 白ごうからのぞきえ

大きな災害が起きたときのひなん場所などについて、家族で決めておきましょう。

自分が住んでいるところでは、どんな災害がおきることが考えられるか、家族で話し合ひましょう。

【ひなん場所について】

大きな災害が起きたときのひなん場所について、家族で話し合ひて決めておきましょう。

☐ 学校にいるとき

※学校にいないときのひなん場所を家族でも確認しておきましょう。

☐ 家にいるとき

☐ 登下校中

【ひじょうもち出し品をじゅんぴしましょう】

じゅんぴしてあるか、家族でチェックしましょう。

☐ 水	☐ 食パン	☐ お茶	☐ 湯ちゃん	☐ いんかん	☐ かい中電とう	☐ 炬燵
☐ 傘がえ	☐ ヘルメット	☐ ラジオ	☐ 電池	☐ ライター	☐ マッチ	☐ 薬

学校 年 名前

1～3年生

家族で確認！ 白ごうからのぞきえ

大きな災害が発生した時の避難場所等について、家族で確認しておきましょう。

自分が住んでいる地域ではどんな災害が発生することが考えられるか家族で話し合ひましょう。

○ 避難場所の確認事項

【避難場所について】

大きな災害が発生したときの避難場所について、家族で話し合ひて決めておきましょう。もし、一人で行くときに災害が発生した場合には、家族で決めた避難場所に家族が来ることを覚悟して、急いで避難しましょう。

避難場所の種類	避難場所
学校にいるとき	
家に近いとき	
登下校中	学校に近いとき
	家と学校の中間地点
家に一人で行くとき	

【非常持ち出し品の準備・点検について】

避難場所や避難経路の確保は、避難してからの家族でチェックしておきましょう。

持ち出し品	確認	持ち出し品	確認	持ち出し品	確認
水	家族全員	お茶	家族全員	湯ちゃん	家族全員
お茶	家族全員	湯ちゃん	家族全員	かい中電とう	家族全員
炬燵	家族全員	かい中電とう	家族全員	炬燵	家族全員
ヘルメット	家族全員	ヘルメット	家族全員	ヘルメット	家族全員
ラジオ	家族全員	ラジオ	家族全員	ラジオ	家族全員
電池	家族全員	電池	家族全員	電池	家族全員
ライター	家族全員	ライター	家族全員	ライター	家族全員
マッチ	家族全員	マッチ	家族全員	マッチ	家族全員

【大災害発生時の避難方法について】

大災害が発生した場合には、電話がつかない状況になることがあります。その場合、「災害用伝言ダイヤル171」を利用して、伝言を録音したり、その伝言を聞いていただきます。（録音は1週間を単位にしてください）

○ 避難するときに気を付けること

☐ 災害が発生した場合は、家族や近所の人と一緒に早めに避難しましょう。

☐ 子どもだけで避難する場合には、学校で学習したことを思い出して、自分の命を守りぬぐために避難をつくりましょう。

学校 年 名前

4～6年生

「地球キッズ探検隊」

<http://www.jishin.go.jp/kids/index2.html>

「もしもに備える防災クイズ」

<http://www9.nhk.or.jp/311shogen/fa/quiz/index.html>

（上記のホームページを使ってクイズを用意していたが、時間の都合で当日は省いた。）

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	山陽小野田市立津布田小学校	実施時間	学級活動（２年）
-------	---------------	------	----------

１ ねらい

- 児童が家庭にいるときに大きな地震が起こった場合、どのような行動をとるべきかを考えさせ、実際に大きな地震が起きた場合に適切な避難行動がとれるようにする。

２ 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 地震についてのアンケート結果を見て話し合う。	・ 防災教育テキストを読んで、東日本大震災の様子を伝え、地震は、いつ、どこで起こるかわからないことを確認する。	・ 写真資料等を通して、大地震の被害の様子を知らせる。
家で、じしんがおきたら、どのようにひなんしたらよいでしょう。		
2 家にいるときに大きな地震が起きた場合の避難の方法について話し合う。 (1) この部屋で考えられる危険 (2) 揺れが収まるまでの行動 (3) (1) の危険から身を守るための備え (4) 揺れが収まった後の避難の方法	・ 災害安全K Y T 資料⑥の絵をプロジェクターで提示し、指定した状況で、対処の仕方を考えさせる。 ・ これまでの避難訓練の経験を想起させ、テーブル等の下に潜って、頭部を保護することを押さえる。 ・ 地震により火災が発生することも想定させ、避難訓練や「おかしもち」の行動を生かすことの大切さに気付かせる。	 ・ 自分の命を守るために、「物が落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せることの重要性を考えさせる。 ・ 低学年児童が自分でできることとして、落下の恐れがあるものを置かないことや、整理整頓することの大切さに気付かせる。
3 家で地震が起きた際に自分がとるべき行動についてのめあてを立てる。	・ 自分の家や家族を想起させて、めあてを立てさせる。 ・ 「めあてカード」に記入させることで、防災に対する意識を高めさせる。	・ 自分の命を守るための備えを最優先して、めあてを立てるよう助言する。
4 教師の話を聞く。 ・ 普段から、地震に対する備えや心構えをもつことの大切さについて	・ 防災教育テキストの【ひじょうもち出し品】のチェックリストを使って確かめさせる。	・ 家庭での防災グッズや地域の避難場所を確認させる。
		

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	下関市立養治小学校	実施時間	学級活動（５年）
-------	-----------	------	----------

1 ねらい

- DVD視聴や「防災教育テキスト」から、地震のメカニズムや実際の被害の状況を学ぶとともに、山口県や下関市で想定される地震について理解させる。
- 下校途中に地震に遭遇した場合の行動について考えさせ、危機意識や安全意識を高め、自ら安全に行動できるようにする。

2 展 開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 東日本大震災に関するDVDを視聴し、地震による津波災害について知る。	地震が起きた時に想定される被害を想起した後に、3年前に起きた未曾有の大地震である東日本大震災のDVDを見せる。	DVD「自分の命は自分で守る～津波災害への備え」（内閣府）のダイジェスト版を視聴して、津波による被害を現実のものとして視覚的に捉える。
地震から自分の命を守るためには、どうしたらよいだろう。		
2 「防災教育テキスト」を用いて、地震のメカニズムや県内で発生が想定される地震・津波の被害について知る。	山口県の主な活断層の地図から想定される災害について話し合わせ、いつ、どこで地震が発生してもおかしくない状況であること、そのための心構えや備えが必要であることを押さえる。	テキストの中の語句「マグニチュード」「震度」「断層」などの語句については、解説を加えながら、地震のメカニズムについて理解を深める。
3 「危機予測学習（KYT）資料集」の資料①の絵を見て、地震が起きた時に起こりそうな危険について考え、危険回避の方法について話し合う。 (1)場面の読み取り	- 養治小学校の校区は、商店街が多いことから、危険予測学習資料（KYT）の災害安全資料①を使って、下校中に地震が起きる場面を想定して話し合わせる。 - ワークシートに予測を書いた後に、全体の場で意見を発表させる。	「危機予測学習（KYT）資料集」のワークシートを活用して、全員が主体的に危険予測学習に取り組むことができるようにする。
(2)危険の予測と重大な危険の絞り込み (ワークシートへの記入→発表と話し合い)	重大な危険の絞り込みをさせる。	イラストの場所を、校区内の具体的な場所を合わせて想起することで、現実の問題として考えさせる（唐戸商店街など）。
(3)回避方法の考察 (ワークシートへの記入→グループでの話し合い→全体でのまとめ)	話し合いの後、テキスト2ページを読んで、地震が発生した時の危険回避方法を確認する。	「見えている危険」と「見えていない危険」に分けて板書することで、様々な角度から危険を予測することが大切であることに気付かせる。
4 養治小学校校区の避難場所を知るとともに、日頃からできる備えについて話し合う。 ・家庭での実践へとつなげる	「下関市防災マップ」から、養治小学校校区での指定避難場所（養治小学校・第4幼稚園）、広域避難場所（火の山）、一時避難場所（幸町公園）を地図で確認する。 - テキスト巻末「家庭で確認！日頃からの備え」を確認する。	- 養治小学校は海の近くであることから、地震発生後の津波に対する危険回避についても話し合う。 「学校にいる時」「下校中」「家にいる時」「遊びに出かけている時」など、様々な場面を想定しながら具体的な避難場所を確認する。 - 家庭で行っている「備え」について確認し、家庭での話し合いにつなげる。

3 考 察

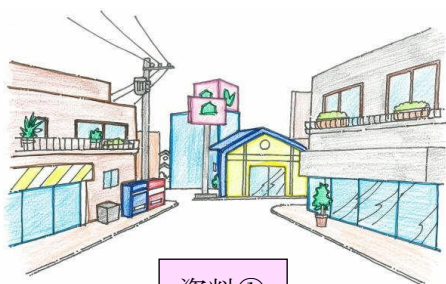
- 授業の導入で、東日本大震災のDVDを見ることで、地震による甚大な被害や津波の恐ろしさなどを視覚的に捉えて、より現実のものとして自然災害を捉えることができた。その後の危険予測学習資料を使った作業でも、現実の問題として考えることにつながった。

視聴したDVD

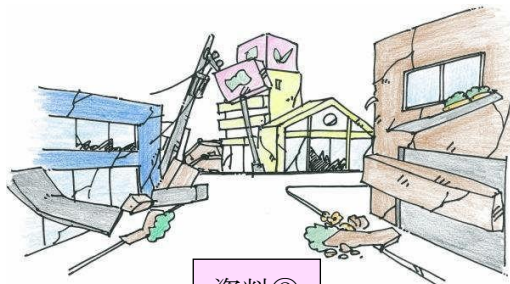
東日本大震災を教訓とした防災教育教材
自分の命は自分で守る
－ 津波災害への備え －
内閣府



- 養治小学校の校区は、商店街や住宅地がほとんどであることから、危険予測学習資料（KYT）の災害安全資料①と資料②のイラストを活用した。



資料①



資料②

場面を「今日の下校の途中に地震に遭遇したら」と設定して、資料①のイラストを見て、予測される災害や危険回避の方法についてワークシートに記入させた。イラストがあることで、全員が主体的に課題に取り組むことができた。その後グループや班で話し合ったが、危険回避の方法として、

- ・ランドセルの中身を出して、頭の上にランドセルをかぶせる。
- ・頭を低くして、道の真ん中でじっと揺れが収まるのを待つ。
- ・揺れが収まったら、頭をランドセルや安全帽子などで守りながらできるだけ体を低くして、安全な場所に逃げる。

などの具体的な方法が児童から出された。KYT資料②と合わせて考えることで、より具体的な場面を想像して話し合うことにつながった。その後もう一度、「自然災害から自分の身を守るために」（小学校4～6年用）の2ページから、地震発生後の避難方法のポイントを確認することで、『自分の身は自分で守らなければならない』という本時のねらいを押さえることができた。

- 学習のまとめでは、養治小学校校区の避難場所について、市の防災マップを基に確認をした。実際に避難場所について話し合っている家庭は半数程度であったので、授業の内容を学級通信で知らせ、家庭と連携して防災意識を高めることができるようにした。また、最終ページの内容も再度家庭で確認するようにした。



下関市防災マップ

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	下関市立室津小学校	実施時間	学級活動
-------	-----------	------	------

1 ねらい

- 地震が発生したときの避難行動を、その場の状況に合わせて考えさせるとともに、二次被害に遭わないための方法について考えさせることで、児童自身の危機対応能力を高める。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 災害安全K Y T資料④を見て、理科の実験中に地震が起きた場合に、どのような危険が発生するかを考える。 	地震の際の避難行動を考えるだけでなく、地震によって発生する理科室特有の危険についても気付かせる。 	危険を感じるものについてマーカーで印を付け、どのような危険なのかを言葉で記入させる。児童の発言については、掲示用の資料に全員の意見が分かるように印をしていく。 
2 揺れが収まるまでのどのような行動をすればよいのかを、資料を見ながら考える。	揺れがひどいときには身動きがほとんどとれないことを伝えるとともに、何ができるかを資料の中から読み取らせる。	揺れているときの自分の位置に印を入れ、その場所が安全かどうかを考えさせる。
3 下関市の地震発生の可能性について、「防災教育テキスト」1ページから読み取る。	菊川断層に着目させ、身近なところに断層があることに気付かせる。	
教室にいるときに地震が起こったら、まず何をしたらよいか考えてみよう。		
4 今の状態で菊川断層の大地震が起こったら、どのような行動をとるか実際に動いてみる。	どのような行動をとったか、どの場所に避難しているのかを確認させ、それぞれのよさや危険性について話し合わせる。	机の下に隠れることや広い場所に移動することなどが考えられる。

児童が実際に動いた場所

- ・机の下
- ・教室の空いたスペース
- ・教室の真ん中
- ・窓際



- ・「テキスト」2ページ『建物の中にいたとき』で確認させる。



- ・頭の近くに落下物はないか。窓ガラスなど割れる可能性はないかなど、児童の気付きから危険を予知する力を付けさせたい。



学校外で地震が起こったら、どこに避難したらよいか調べよう。

- 5 学校（室津地区内に限る）で地震に遭ったときにどこに避難するか、「室津地区防災マップ」で確認する。

- ・自分の家の場所に印を付けさせ、一番近い避難場所を確認させる。

- 6 室津地区防災マップを基に避難場所を家族と一緒に考え、「家族で確認！日頃からの備え」に記入する。

- ・「テキスト」を家庭に持ち帰り、家族と相談しながら家庭での約束（避難場所等）を決めるよう伝える。

- ・避難場所について家族の人と話し合っているかどうかを尋ねる。家族間で話し合っておくことが、二次災害の防止につながることを例示する。2011年の東日本大震災では、東北地方の言い伝え「津波でんでんこ」を守ったことで、津波の被害に遭わなかった例や、逆に家族を探しに行ったために二次災害に遭った例などを挙げる。



- ・後日家庭から「防災教育テキスト」を回収した後、避難場所等の一覧を制作する。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	萩市立明木小学校	実施時間	学級活動
-------	----------	------	------

1 ねらい

- 児童に避難訓練の意義を理解させ、安全に避難できるための基本行動を身に付けさせる。
- 緊急地震速報の受信を想定した避難訓練を通して、地震発生時に素早く自分の命を守る行動ができるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
想定：授業中、緊急地震速報を受信し、身に危険を感じるぐらいの地震が発生した。 揺れが収まった後に、素早く避難場所に避難する。		
1 緊急地震速報を聴いて、直ちに対応行動をとる。 ・机の下に隠れる ・出口や通路の確保 ・火の始末 等 	・机の下に隠れ、身の安全の確保を指示する。 ・勝手な行動をさせず、放送を黙って聴かせる。 	・パニックを起こさないように、落ち着いた行動を呼びかけ、児童の様子を注意深く見守る。 
2 放送の合図で指定場所へ避難する。 ・安全な経路で避難 ・赤白帽をかぶる ・避難開始 ・整列、人員報告 ・指導講話 等	・避難する時の合言葉「おはしも」を徹底し、避難誘導に当たる。 ・おさない ・はしらない ・しゃべらない ・もどらない	・効果音を活用し、緊張感をもって取り組ませる。 
3 「防災教育テキスト」を活用して、地震発生時の被害や対応行動について考える。	・地震について知っていることを発表させながら、「防災教育テキスト」の内容を確認する。 	・地震発生までに数秒から数十秒しかないことから、瞬時に行動し始めることが重要であることを伝える。 ・家庭やその他の場所でも同様に瞬時に行動し、身の安全を確保することの大切さを理解させる。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	柳井市立柳井中学校	実施時間	学級活動
-------	-----------	------	------

1 ねらい

- 地震発生による火災や津波への対処方法を身に付けさせるとともに、災害から命を守るための備えを日頃から行っておくことの大切さを理解させる。
- ハザードマップで柳井市の危険箇所や避難場所を確認させ、災害発生時に安全な範囲内で一般の人々と協力し救出活動を行うなど、自分ができることを行おうとする態度を育てる。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 地震発生から火災を想定した第一次避難をする。 ・建物の中にいるときの正しい方法（机の下に身を隠すなど） ・火災から身を守るための避難経路や避難場所（グラウンドなど）	・「防災教育テキスト」2ページを使い、安全な場所で安全な体勢をとることの大切さを伝え、全員が身を守っているかを確認する。 ・「お・は・し・も」を徹底させ、全員が安全に避難していることを確認する。	・慌てず、冷静に行動するよう指示するとともに、私語や真剣さに欠ける行動がないよう注意深く見守る。 ・生徒の肩を一人ずつたいて、人数確認を行う。 ・生徒の避難の様子を観察・評価し、生徒の適切な振り返りにつなげる。
2 地震による津波を想定した第二次避難をする。 ・二次避難方法、経路	・自分の安全が確保できたら、家族や近隣住民の安全確認確保に努めるよう指示する。	・安全な範囲内で救出活動等自分ができることに努めることが、中学生に求められる態度であることを伝える。
3 防災アドバイザーによる講話を聴く。 ・避難の様子についての指導 ・ハザードマップをもとにした、柳井市の危険箇所や避難場所	・自然災害から命を守るための備えにハザードマップが有効であることを伝え、その入手方法と活用方法を確認する。	・避難訓練に関する指導内容を、事後指導に生かす。
4 振り返りをする。 □災害への備えや発生時の対処方法 □柳井市の危険箇所や避難場所の把握 □自分の身を守るだけでなく、安全な範囲内での救出活動等への協力	・左記3点について自己評価させ、本時の学習活動を振り返らせる。 ・本時の学習を受け、「防災教育テキスト」P7を使って、家族で確認するよう指示する。 □日頃からの備え □家族の中での自分の役割	・災害発生時における対処方法だけでなく、地域の安全に貢献し、住民の一人として自覚ある行動がとれるかどうかという点について評価を行い、事後指導につなげていく。



【津波を想定した高台（琴石山）への避難】



【柳井市ハザードマップを使った
防災アドバイザーによる講話】

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	光市立光井中学校	実施時間	学級活動
--------------	-----------------	-------------	-------------

1 ねらい

- 生徒が災害に対する正しい知識・技能をもとに、的確に状況を判断し、主体的に行動できる「防災対応能力」の向上を図る。
- 子どもたちが自らの命を自ら守るために主体的に行動し、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を育成する。
- 参観日に「防災教育テキスト」を活用した授業を行い、生徒と保護者が共に防災意識を高める。

2 事前指導

- ◇ 「家庭で確認！日頃からの備え」を家庭に持ち帰らせ、家族で話し合い、再確認をさせる。
- ◇ 学校での避難場所や生徒引き渡し等を追加項目として明記させる。

3 展開(生徒と保護者が一緒に考えられる場合は一緒に行う。)

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 地震・津波の発生メカニズム等について知る。 ・ 山口県(付近)の活断層 ・ 今後発生が想定される巨大地震 2 危険予測学習(KYT)資料を活用し、地震発生時の危険回避方法を考える。 室内 ①居間にいるとき ②火を使っているとき ③エレベーターの中にいるとき 屋外 ④河川や河口にいるとき ⑤山にいるとき 3 土砂災害の発生メカニズムや対処方等について知る。 ・ がけ崩れ ・ 土石流 ・ 地滑り 4 振り返りをする。	・ 「防災教育テキスト」を活用し、地震・津波について説明及び確認をする。 【南海トラフ地震】 震度6弱、最大津波高5m 到達時間106分(津波1m) (2014/3/28資料より) ・ 危険箇所の発見と対処方法、危険回避の備え等を考えさせる。     ・ がけ崩れは地震でも起きるが、土砂災害は主に集中豪雨で発生することを説明をする。 ・ <u>ハザードマップ</u>の活用で危険箇所や避難場所の確認ができることを説明する。 ・ 「家庭での確認」を再確認させる。	・ 2、3年は学習済みのため、生徒に説明をさせることも可能。 ・ 標高5mではなく、津波の高さが平均海面から最大5mであることを確認する。 ※自分の命を守ること(頭部等の保護)や日頃の備えが重要であることを確認する。 ①頭を保護し、「物が落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に移動する。 ②火元が近いときは火を消す(遠いときは、揺れが収まった後に消す。) ③全ての階を押し、止まったら直ちに降りる。閉じ込められたら、非常ベルや電話のボタンを繰り返し押し、救助を求める。 ④津波に注意し、高台をめざして逃げる(<u>防災無線を聴く。光井小にある屋外拡声局を確認する。</u>)。 ⑤がけ崩れが起こる可能性があるので、がけから離れる。 ・ 近年、山口県でも局地的な大雨が発生していることを伝える。 H26年：広島県、岩国市・和木町 H25年：萩市・山口市 ※ハザードマップはあくまでも目安であり、想定外が起こる可能性があることを説明する。 ・ 率先避難者となるよう指導する。 ・ 自分の命を守り抜くために最善を尽くす。 ・ 地域の方々と協力し、避難の呼びかけ、小さい子どもやお年寄り、障害のある方の手助けをする(安全の範囲内で)。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	山口市立小郡中学校	実施時間	学級活動
--------------	------------------	-------------	-------------

1 訓練のねらい

- 地震による津波が発生した際、自らの安全確保を第一に、迅速かつ的確な避難行動ができるよう生徒の危機意識及び危機対応能力を高める。
- 小中連携による訓練により、生徒が自らの安全を確保しつつ、年少者である児童の安全にも配慮し、助け合うことの大切さを学ばせる。

2 訓練の日時

平成26年11月5日（水） 11：30～12：30

3 事前指導と準備（「防災教育テキスト」を活用した指導と準備）

- ◇ 地震等、突発的な自然災害が発生した場合は、放送や教職員の指示に従い、落ち着いて静かに行動する。
- ◇ 地震が発生した場合は、身の安全を確保するために、机など丈夫な物の下に潜り、机であれば対角の脚をしっかりと持ち、机が倒れないようにする。
- ◇ 二次避難場所に避難する際、中学生は隣接する小学校の児童に声をかけ、中学校3年生は小学校1, 2, 3年生の手を引くなど、協力して避難する。
- ◆ 児童生徒の避難訓練であると同時に、教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練であることも意識して取り組む。
- ◆ 校外への二次避難場所への訓練であるので、事前に警察、地域、保護者等に連絡し協力を得るとともに、交通安全に十分留意する。

4 展開（訓練の流れ）

地震発生時、隣接する小郡小学校は各教室で授業中という想定で取り組んだ。地震発生後、身の安全を確保し、自校のグラウンドに一次避難し、二次避難場所（山手一番館）に移動する途中に小郡中学校のグラウンドを経由する。その際、低学年（1, 2, 3年生）が安全に二次避難できるように、中学校3年生が手を引いて一緒に避難する。

※ 小学校から二次避難場所に行くまでに中学校があり、避難移動時間にロスはほとんどない。

※ 小学校高学年及び中学校1, 2年生は教職員の指示のもと二次避難をする。

状 況	教師の働きかけ・指導上の留意点	生徒の動き
11:30 地震発生 ① 安全確保 11:32 揺れが収まる ② 情報収集及び避難場所の決定 ③ 一次避難場所への避難 ④ 安全確認（点呼）	・緊急放送をする。 ・各教室で安全行動の指示をする。（生徒に机の下に潜る指示） ・情報収集をする。（学校施設の破損状況、火災発生はないか、避難経路に問題はないか、津波など二次災害はないかなど） ・放送により指示をする。 ・生徒の誘導をする。（あらかじめ定めた避難経路に従って避難） ・生徒を整列させ、点呼をとり、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、報告する。 《報告順》 担任→学年主任→教頭→校長	・落ち着いて放送を最後まで聞き、机の下等で身の安全を守る。 ・下足に履き替え、「無言、安全、迅速」にグラウンドに避難する。 ・学年、学級ごとに整列し、点呼に備える。



11:40 津波警報発令 ⑤ 二次避難場所への避難 ⑥ 安全確認（点呼） ⑦ 指導講評	・津波警報が発令されたことを伝え、1・2年の生徒を二次避難場所へ誘導する。 ・3年生は、小学校低学年の児童とペアを組ませ、避難させる。 ・二次避難場所に避難後、児童と生徒の整列場所を指示し、点呼を行う。 ※報告は一次避難時と同じである。 ☆二次避難場所に避難が完了するまでの時間を測定し、津波の予想到達時間と照らし合わせ、二次避難場所が適切かどうか確認する。 ・校長による指導講評を行う。	・教員の指示に従い、周りの状況に注意しながら二次避難場所に移動する。 ・3年生は小学校低学年の児童の手を引いて、協力して安全に避難する。  ・指導講評を聴きながら、自分の避難行動について振り返る。
--	---	--

5 避難訓練の成果と課題

(1) 感想（生徒、教職員）等

- ◇ 初めての経験でしたが、小学生の手を引きながら、「もし災害が発生した時には、自分が弱い立場の人たちをしっかりと守らなくては」という気持ちを強くもちました。 [生徒]
- ◇ 3.11の東日本大震災が発生したとき、被災した方々がともに助け合う姿がとても印象に残っています。今回の訓練で、自分の身の安全を図ることだけでなく、周囲への配慮や協力がとても大切であるということが分かりました。 [生徒]
- ◇ これまでの学校単独での実施に比べ、職員として訓練に臨む姿勢が違っていることを少なからず感じた。また、小学生の手を引きながら安全に避難する経験は、本校3年生にとって大きな成長材料になったと思われる。 [教員]

(2) 課題

- 小中合同訓練にあたり、実施期日・時間の調整が難しい一面があった。
- 今回は激震・津波発生という、災害としては最悪のシナリオを想定した訓練であり、その中で安全に避難することを最優先課題とした。実際に災害が発生した際に、状況に応じた冷静な判断や的確な対応、また、周囲と協力できる姿勢等を養うための訓練となるよう、シナリオや内容、さらには地域との連携等を今後も検討し、改善を図っていく必要がある。

(3) 今後（次年度）に向けて

上記のような課題があったものの、結果的には11月5日の「津波防災の日」において本格的な訓練が実施でき、本校生徒も真剣に臨み、何よりも小学生に対する優しさを発揮できたことに今回の訓練の意義を感じている。

また、今回、おごおり地域づくり協議会や小郡地域交流センター等地域の関係機関に訓練の様子を見ていただいた。次年度以降は、小・中学校ともに地域とも連携した、より実践的な訓練を行いたいという思いがあるため、今回の成果や課題を踏まえた、より効果的な「地震津波防災訓練」の具現化を図っていきたい。



「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	防府市立右田中学校	実施時間	学級活動
-------	-----------	------	------

1 ねらい

- 授業中に地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるようにする。
- 避難経路の安全を確認しながら、二次避難場所まで整然と避難ができるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 本時のねらいを理解する。 地震が発生したら ～安全な場所で安全な体勢をとる～ ◇ 建物の中にいたとき <身を守るために> ・丈夫な机やテーブルなどの下に隠れましょう。 ・机等がない場合は、物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で、体勢を低くして揺れがおさまるのを待ちましょう。 <ひなんするときの4つのやくそく> 	・地震と津波の避難訓練を行うことを伝える。	・「防災教育テキスト」を活用し、以下の避難行動の基本を伝える。 ・放送や教職員の指示に従い、落ち着いて静かに行動すること。 ・地震が発生した場合は、身の安全を確保するために机等丈夫な物の下に潜り、机であれば対角の脚をしっかりと持ち、机が倒れないようにすること。 ・机等の下に潜っている間も、落ちてくる物はないか、壊れる物はないかなど、周りの状況に注意を払うこと。 ・強い揺れが収まって運動場等に避難する際、「おさない」「はしゃがない」「しゃべらない」「もどらない」の約束を守ること。
2 地震発生時の避難行動を理解する。 (1) 安全を確保する。 (2) 避難場所を確認する。 (3) 避難行動を開始する。	・放送で地震の発生を連絡する。 ・各所の教職員も生徒に机の下に潜るよう指示する。 ・職員室等にいる教職員は、避難場所等の状況確認及び情報を収集する。 ・避難場所を体育館と決定する。 ・放送で避難指示をする。 ・強い揺れが収まった後、生徒、教職員は、周囲の状況に注意しながら、直ちに体育館に避難させる。 ・生徒を誘導する。 ・各所の教職員は、生徒を先導し、事前に定めている避難経路に従って体育館に避難する。	・放送で地震の効果音を流す。 ・地震の効果音により不安な声を発する生徒がいる場合は、大きな声で「大丈夫」「心配しないで」等の声をかけ、落ち着かせる。 ・避難指示をするにあたって、以下の4点を把握する。 ・学校施設の破損、火災の発生等はないか。 ・運動場までの避難経路に問題はないか。 ・運動場に亀裂や液状化はないか。 ・津波等二次災害の情報はないか。 ・職員室等にいる教職員は、避難経路の各所に立ち、生徒全員が安全に避難したことを確認した後、自らも避難する。 ・教頭等は、ラジオや携帯サイトなどで情報収集をしながら避難する。 ・落下物に備えて、タオル、ジャージなどを使用して移動時に頭を守りながら移動すること。 (消防職員から事前に指導あり)

(4) 自分の体調やけがの有無等を伝える。	生徒を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、校長（教頭）に報告する。	生徒の誘導以外の教職員は、あらかじめ決めておいたポイントに立ち、避難時の安全確保に従事する。
3 津波警報発令時の避難行動を理解する。 (1) 二次避難場所への避難をする。  (2) 自分の体調やけがの有無等を伝える。	- 生徒・教職員全員が、体育館に避難したことを確認した後で津波警報が発令されたことを伝え、生徒を二次避難場所へ誘導する。 - 先見の教職員は、避難経路の状況等を確認し、スマートフォンや携帯電話、ハンドマイク等を使って本隊と連絡を取りながら移動する。 - 二次避難場所に避難後、生徒を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、校長（教頭）に報告する。 - 二次避難場所に避難が完了するまでの時間を測定し、津波の予想到達時間と照らし合わせ、二次避難場所が適切かどうか確認する。 - 教頭等は、教育委員会へ生徒、教職員の避難状況等を報告する。	- 教職員は集合し、二次避難場所への移動後の役割分担を確認する。 「防災教育テキスト」を活用し、事前に以下の点を確認する。 - 津波の到達までにはかなり時間がかかること。 - できるだけ高い場所に避難すること（「早く」よりも「高く」）。 - 落下物などに備え、頭を守りながら避難をすること。
4 振り返りをする。	指導者（消防職員）及び校長による指導講評を行う。	指導講評を聴きながら、自分の避難行動について振り返る。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	宇部市立西岐波中学校	実施時間	学級活動
-------	------------	------	------

1 ねらい

- 自然災害から自分の命を守るために、地震や津波から身を守る備えについて理解させるとともに、自分に出来ることを考えさせ、家族での取組につなげることができるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 本時の学習内容を知る。	・「防災とはどのようなことか。」と問いかける。	・「地震は、山口では起きないから大丈夫。」と答える生徒が多いと予想される。 ・防災意識をもつことの大切さを伝えたい。
2 グループでハザードマップ等を見て、自分の家の場所と避難場所を調べ、避難経路を話し合う。	・山口県が作成した資料や宇部市のハザードマップを活用させ、避難場所や避難経路を検討させる。	・床波地区は海に面した場所にある。過去に床上浸水も経験している。また、今年の大雨の時、西岐波小学校の裏山がくずれた。地震だけでなく、様々な災害の可能性についても考えさせる。
3 山口県の災害対策状況や自分の家の地震対策を確認する。	・「防災教育テキスト」を活用し、地震の起きる仕組みの図、山口県の活断層の地図を見せ、地震が発生する可能性を確認させる。	・山口県は地震の被害が少ないので、自分のこととして考えられない生徒が多い。資料を見ることで具体的な山口県の被害を知ることができる。 ・西岐波中学校の海拔が玄関に表示してあるが、何メートルかを覚えている生徒は少ない。南海トラフ巨大地震が発生した場合のシミュレーションの資料を見せ、災害時の状況及び対処方法をグループで考えさせる。
4 地震や災害から命を守るための対策についてグループで考え、発表する。	・地震が発生したら、どうしたらよいかを考えさせる。 「教室で授業をしている時」 「家庭で料理をしている時」 「自分の部屋で寝ている時」	・学校で地震が起きたらどうするかを具体的にシミュレーションさせ、避難経路も確認させる。
5 非常持ち出し袋に入れたらよいものについて話し合う。	・過去の地震災害等より、あったら便利なサランラップ、笛、ガムテープ等の使用方法を考えさせる。	・非常持ち出し袋を準備している家庭は西岐波地区ではほとんどない。しかし、学習を通して、もしもの備えの必要を理解させ、家庭に帰って家族で取り組む活動につなげたい。
6 資料をもとに、日頃からの備えについて家族とともに考えることの必要性を理解し、そのための手順を確認する。	・地震の場合、携帯電話での通話はほとんどできなくなる。災害伝言サービスによる連絡方法があることを知らせる。	・避難場所の確認や災害時の集合場所、連絡方法を決めていない家庭がほとんどである。家族での話し合いの大切さを伝えたい。



【非常持ち出し品の準備・点検について】
避難場所での生活に最低限必要なものを、家族でチェックしてみましょう。

持ち出し品	確認	持ち出し品	確認	持ち出し品	確認	持ち出し品	確認
水		非常食		お金		避難	
医薬品		懐中電灯		笛		着替え	
バスタブ・洗面器		ラジオ		雨具		クイック・マッパ	
救急用品							

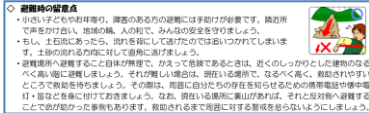
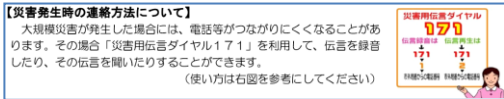
「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	宇部市立小野中学校	実施時間	学校行事
-------	-----------	------	------

1 ねらい

- 自分で判断し、自分の身は自分で守るという防災意識をもち、防災対策について考えることができるようにする。
- 家族や地域の防災意識向上のために、自分にできることを生徒一人ひとりに考えさせる。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 防災避難訓練での学習内容を振り返る。	・地震火災避難訓練で学んだことを発表させ、全体で共有させる。	・災害発生時の最重要課題は、自分の身は自分で守ることである。また、助けられる人から助ける人へ、生徒の意識が変化するかどうかを確認する。
2 「スマイルとうほくプロジェクト」参加者からの復伝を聞く。 (1) 写真や映像から、岩手県大船渡市の被災時の様子との現在の様子の比較をすることで、災害状況を把握する。 (2) 被災者の方々の言葉から、災害に対する心構えや、注意事項について考える。 (3) 今もまだ復興途中の被災地の方の思いを考え、自分たちの生活を振り返る。	・東日本大震災当時の映像や現在の写真、被災者の肉声やメッセージなどを使うことで、生徒の中で風化しつつある思いを想起させる。 	・東日本大震災の衝撃が生徒の中で徐々に風化しつつある現状を踏まえ、当時の映像や肉声を聴かせる。
3 「わが家の防災ルール」づくりをする。 (1) 今、地震が起きたとしたら、家族とどのように連絡を取るのだろうか。 (2) 学校以外で大地震が発生した場合はどうすればよいのだろうか。 (3) 日頃の準備品には何があるのだろうか。 (4) 家族の防災意識を高めるために日頃からどんなことをしたらよいだろうか。	・被災地の人からのメッセージをもとに、自分たちができる防災対策について考えさせる。	・学校以外で被災した場合に自分で判断して行動できるように、いろいろな場面を想定させる。 〈防災教育テキストP4, P7活用〉  
4 学習の振り返りをする。	・自分がまず実行しなければいけないことや、周りに対しての働きかけについて考えさせる。	・今日から即実行していこうという意欲を、家族にどのように伝えるかを考えさせる。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

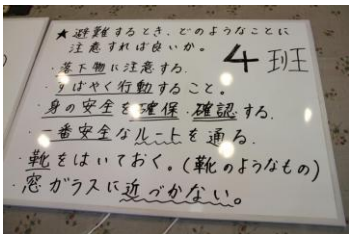
学 校 名	萩市立田万川中学校	実施時間	学級活動の時間（２時間扱い）
-------	-----------	------	----------------

1 ねらい

- どこにいても、地震から身を守る場所を瞬時に見つけ、自分の身を守るができるようにする。
- 避難の方法について事前に話し合わせることで、災害発生時に指示した避難場所に落ち着いて避難できるようにする。
- 危険予測学習（KYT）を通して、生徒自らが災害に対する危機意識や安全意識を高める。

2 想定：萩市沖 50 km M7 地震発生、震度 5 火災発生なし

3 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 初期対応（休憩時間） ・各自の場所で、身の安全を守る行動をとる。 （情報収集及び避難場所決定、初期対応） 	・放送で緊急地震速報を流す。（10秒後に地震発生） 「地震避難訓練です。」 「緊急連絡。ただ今、緊急地震速報を受信しました。数秒後に大きな揺れがきます。直ちに身の安全を守りなさい。」 「今強く揺れています。」 「揺れが収まりました。」 （終了指示）	・生徒がどのように行動したか確認する。（指示はしない）
2 二次対応（クラスごと） ・各班で安全な避難経路について考える。 ・避難経路での安全について、避難経路を実際に確かめる。	・各班で避難経路について考えさせる。（ワークシート配付） ・各班にホワイトボードを配付し、考えさせる。（10分間） 	・各班で負傷者役を1名選出し、負傷者の搬送を含めた避難経路について考えさせる。 ・避難時に注意すること等についても記入させる。
3 避難行動 ・負傷者を搬送しつつ、避難場所に避難する。 	・放送で二次避難を指示する。 「強い揺れが収まりました。周囲の状況に注意しながら、直ちに運動場に避難しなさい。」 ・班ごとに避難させる。	・階段等、危険な場所には教員が立ち、確認する。
4 人員確認 ・班の人数、負傷者の状況を担任へ報告する	・負傷者の状況、人員の確認を行う。	・二次避難の状況について講評する。 

5 校長の指導講話

- ・指導講評、講話を聴きながら、本日の避難行動について考えると同時に、災害発生時に自ら安全に行動できるよう、危機意識や安全意識を高める。

- ・「危険予測学習(KYT)資料集」や「防災教育テキスト〈家族で確認日頃からの備え〉」を活用した学習を行う。

山口県は、地震による被害・津波による被害は起きないのでしょうか？

過去の大きな地震災害

順位	震源地	震度	被害総数(人)
1	関東大震災	1923 7.8	105,000
2	三陸沖地震	1994 8.5	32,000
3	新潟県中越前地震	2011 9.1	19,000
4	東北地震	1891 8.0	7,200
5	新潟・津波大震災	1955 7.2	6,400
6	阪神地震	1995 7.3	5,700
7	三陸沖地震	1933 8.1	3,900
8	北九州地震	1937 7.3	2,400
9	三陸地震	1946 8.2	2,100
10	阪神地震	1945 8.0	1,500
11	東海型地震	1844 7.8	1,200
12	島根地震	1864 7.3	1,000

※ 資料、資料集による地震

【地震発生のメカニズム】



【KYT学習】



【地震発生時の対処方法】



【家族で確認 日頃からの備え】

6 スクールガードリーダー講習

- ・本日の避難訓練全般について講評を聴く。

- ・防災について日頃からできる備えについて学習させる。



- ・振り返りシートに記入させる。

7 振り返り

- ・本日の避難訓練を振り返る。

- ・山口でも地震は起こり得ること、過去の災害から学ぶこと等を押さえておく。

- ・災害安全KYT資料①「商店街での地震発生」に潜む危険を予測し、指摘しあうことで、現実に関わりそうな危険に気付かせる。

- ・本日の避難訓練を振り返りつつ、実際に地震が発生した場合の対処方法を伝える。

- ・「防災教育テキスト」を再確認し、災害発生に備え、家庭内で話し合っておくことについて確認する。
(後日提出)

- ・学校安全全般について講話してもらう。

- ・振り返りシート内評価集計を行い、成果と課題を確認する。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	岩国市立修成小学校	実施時間	理科
-------	-----------	------	----

1 ねらい

- 洪水のときの様子や洪水を防ぐための工夫について調べ、雨の降り方によって流れる水の速さや水の量が変わり、増水によって土地の様子が大きく変化する場合があることを理解させる。
- 「防災教育テキスト」やハザードマップを使って、自分たちが住んでいる場所で起こり得る災害（がけ崩れ・土石流・地すべりなど）を理解させ、命を守るために適切な行動がとれるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 学習のめあてを確認する。	・学習のめあてを示す。	・これまで学習してきた流れる水の働きや、川と災害についてまとめていくことを確認する。
洪水や大雨のときにおこる災害について考えよう。		
2 大雨が降ると起こりやすい災害について調べる。	・電子黒板や教科書、パソコンを活用させる。 ・土石流や雨の強さについては、実際に映像を見せて理解を深めさせる。	・「防災教育テキスト」も併せて活用し、土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）について、その仕組みや前ぶれ等を確認させる。
3 自分たちの住んでいるところで起こりやすい災害について調べる。 ・周東町ハザードマップ		・自分の家の位置を地図上に書き込ませた後、浸水の深さ、土石流、がけ崩れ、地すべりの危険箇所について確認させる。
4 自分たちの住んでいるところで災害から命を守るためにどうするか話し合う。	・災害から命を守る方法を話し合わせる。 ・危険な場所を知る。 ・天気予報など最新の情報を確認する。 ・危険が迫ったら早めに避難する。 等	・児童の話し合いの中で、気付かなかったことについては、「防災教育テキスト」を活用し、補うようにする。
5 学習のまとめをする。 ・クイズ	・パソコンを使ってクイズ形式で本時のまとめを行う。	・地域の避難場所（本校や米川公民館）について再確認する。
6 次時の学習について知る。	・次時の学習を予告する。	・本時では主に洪水や土砂災害について考えたが、次時では地震・津波、台風などについても考えることを伝える。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	岩国市立宇佐川小学校	実施時間	学級活動（５年）
-------	------------	------	----------

１ ねらい

- 土砂災害の怖さと適切な避難行動について理解させる。

２ 準備物

- ◇ 広島県の土砂災害の新聞記事・写真
- ◇ 土砂災害の映像（国土交通省「土砂災害映像ライブラリ」）
- ◇ 岩国市土砂災害ハザードマップ

３ 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点								
1 身近で起きた災害について知る。	・ 広島県で発生した土砂災害について、知っていることを発表させる。	・ 当時の新聞記事と写真等を準備し、地図で場所を確認することで身近で大きな災害が起きたことを実感させる。								
土砂災害について学習し、避難の仕方について考えよう。										
2 土砂災害の種類について理解する。 ・ がけ崩れ ・ 土石流 ・ 地すべり	・ 土砂災害の種類を説明する。 	・ 児童から出てこない場合は「防災教育テキスト」で確認させる。 ・ 実際の映像を見せることにより、災害の恐ろしさを実感させるようにする。								
3 土砂災害が起きるのはどのようなときか考える。	・ 土砂災害の発生原因を考えさせる。 大雨、ゲリラ豪雨、台風、降雪、地震	・ 土砂災害の発生原因について確認することで、避難のタイミングについて考える根拠とする。								
4 避難のタイミングについて考える。	・ 避難開始のタイミングについて、土砂災害の発生原因や「前ぶれ」を基に考えさせる。 <table border="1"><thead><tr><th>情報の種類</th><th>情報の具体的内容等</th></tr></thead><tbody><tr><td>避難準備情報</td><td>雨が降り続くなどした場合には、避難勧告や避難指示を行うことが予想されるため、避難の準備を呼びかけるものです。</td></tr><tr><td>避難勧告</td><td>被害の危険が予想されるため、その地域の人に避難所等に避難することをすすめるものです。</td></tr><tr><td>避難指示</td><td>被害の危険がせまったときに出されるもので、避難するよう強く指示されます。</td></tr></tbody></table>	情報の種類	情報の具体的内容等	避難準備情報	雨が降り続くなどした場合には、避難勧告や避難指示を行うことが予想されるため、避難の準備を呼びかけるものです。	避難勧告	被害の危険が予想されるため、その地域の人に避難所等に避難することをすすめるものです。	避難指示	被害の危険がせまったときに出されるもので、避難するよう強く指示されます。	・ 「前ぶれ」という言葉の意味を「防災教育テキスト」を使って確認する。
情報の種類	情報の具体的内容等									
避難準備情報	雨が降り続くなどした場合には、避難勧告や避難指示を行うことが予想されるため、避難の準備を呼びかけるものです。									
避難勧告	被害の危険が予想されるため、その地域の人に避難所等に避難することをすすめるものです。									
避難指示	被害の危険がせまったときに出されるもので、避難するよう強く指示されます。									
5 ハザードマップを作る。 ・ 危険箇所、避難場所の確認	・ 保護者と相談して、地域の危険な箇所を地図にまとめさせる。	・ 岩国市土砂災害ハザードマップを参考にさせる。 ・ 保護者と相談することで、地図上の危険箇所を具体的に理解させる。								

４ 評価

土砂災害の発生メカニズムや恐ろしさについて知り、避難の方法について理解することができたかどうかを評価する。

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	柳井市立平郡東小学校	実施時間	学級活動（１・２年）
-------	------------	------	------------

１ ねらい

- ゲリラ豪雨が引き起こす危険について話し合うことを通して、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を高める。

２ 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
１ 本時の課題をつかむ。 	・スクリーンに映し出したゲリラ豪雨時の被害写真や「防災教育テキスト」の表紙の写真がどのような場面か意見交換させる。	・ゲリラ豪雨による被害写真や「防災教育テキスト」の表紙を提示し、被害の様子を読み取らせ、起こる危険を考えやすくする。 
おおあめからじぶんのみをまもるためには、どうしたらよいでしょう。		
２ ゲリラ豪雨の時、家の中にいたらどうなるか考える。 ・家ごと流される ・家が土砂にうまる ・命がなくなる ・けがをする	・スクリーンに映し出したゲリラ豪雨の被害状況のわかる写真や、「防災教育テキスト」５ページを参考に状況を考えさせる。	・１の活動で使用したゲリラ豪雨の被害状況のわかる写真や「防災教育テキスト」を用意する。 ・土砂や大水が流れてきたら家が破壊されるだけでなく、そのことが人命を奪うことにつながることを新聞記事からも気付かせる。
３ 自分が住んでいる所の危険について話し合う。  ・山が崩れる ・土砂が家に入る ・水びたしになる ・水が家に入る	・ハザードマップの見方について説明する。 ・どんな危険が潜んでいるか考えさせる。 ・ハザードマップを使って、自分の家の危険を友達に説明させる。 	・平郡東地区のハザードマップを用意し、自宅の位置や土砂災害危険地域などを確認させ、自分の家はどういう状況におかれているか、自分の家と災害の関係を読み取らせる。 ・友達同士で自分の家の危険について伝え合い、自分が気付かなかった危険に気付かせるようにする。 
４ 大雨の災害から自分の身を守る方法を発表する。 ・小学校体育館に避難する ・漁協に避難する ・家の２階に移動する	・大雨が降ってきた時に命を守るために自分がとる行動を学習プリントに記入させた後、発表させる。 ・自分の避難場所を「防災教育テキスト」の７ページに記入させる。	・避難場所の確認だけでなく、その経路についても考えることが必要であることを押さえる。 ・家族全員が避難場所や経路について共通認識しておくことが大切であることを伝え、それを実践させる。

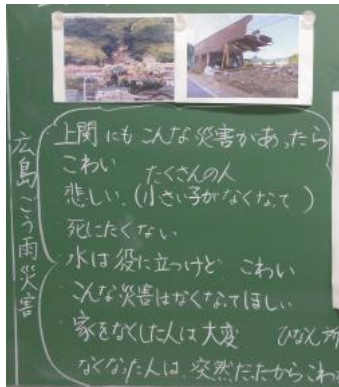
「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学 校 名	上関町立上関小学校	実施時間	理科（5年）
-------	-----------	------	--------

1 ねらい

- 土砂災害が起こる仕組みや洪水を防ぐ工夫を調べることを通して、災害に対する意識を高め、土砂災害から命を守るための備えができるようにする。

2 展開

学習内容・活動		教師の働きかけ	指導上の留意点												
1 広島県における8.20豪雨災害の様子を知る。 ・集中豪雨による被害		・自然災害の中でも、特に今年の夏に起きた土砂災害について想起させ、「どのようなことを感じ、どんなことを考えたか。」を発表させる。	・広島豪雨災害の写真を提示し、被害の大きさや人命が奪われたこと等について、実感をもたせる。 ・自分のこととして考えられるように、上関町の地形を考えさせる。 ・現実的に捉えさせるために、一人ひとりに考えたことを発表させる。												
		土砂災害から命を守る備えについて考えよう。													
2 土砂災害の種類や発生の仕組みを知る。		・「防災教育テキスト」を活用し、土砂災害の発生メカニズム、種類、前ぶれについて理解させる。	・5年生理科「流れる水のはたらき」で学習したことを想起させる。 ・仕組みや前ぶれを全員にイメージさせるために、「防災教育テキスト」の絵を拡大して説明する。												
<table><tr><th></th><th>仕組み</th><th>前ぶれ</th></tr><tr><td>土石流</td><td>大雨。多くの土砂が水と混じり津波のように流れる。スピードが速く、破壊力が大きい。</td><td>立木がさける音。石がぶつかる音。川の水の濁り。流木が混ざる。</td></tr><tr><td>がけくずれ</td><td>大雨。土がゆるみ、突然くずれ。スピードが速い。</td><td>がけからの水がにごる。小石が落ちる。木の根が切れる音。</td></tr><tr><td>地すべり</td><td>地面全体がずるずる動き出す。</td><td>地面にひび割れが生じる。川の水が濁る。家の壁にひびが入る。</td></tr></table>			仕組み	前ぶれ	土石流	大雨。多くの土砂が水と混じり津波のように流れる。スピードが速く、破壊力が大きい。	立木がさける音。石がぶつかる音。川の水の濁り。流木が混ざる。	がけくずれ	大雨。土がゆるみ、突然くずれ。スピードが速い。	がけからの水がにごる。小石が落ちる。木の根が切れる音。	地すべり	地面全体がずるずる動き出す。	地面にひび割れが生じる。川の水が濁る。家の壁にひびが入る。		
	仕組み	前ぶれ													
土石流	大雨。多くの土砂が水と混じり津波のように流れる。スピードが速く、破壊力が大きい。	立木がさける音。石がぶつかる音。川の水の濁り。流木が混ざる。													
がけくずれ	大雨。土がゆるみ、突然くずれ。スピードが速い。	がけからの水がにごる。小石が落ちる。木の根が切れる音。													
地すべり	地面全体がずるずる動き出す。	地面にひび割れが生じる。川の水が濁る。家の壁にひびが入る。													
3 自分の家の付近で危険な場所を知る。		・ハザードマップを手がかりに、自分の家や住んでいる地域の危険性を考えさせる。	・児童一人ひとりに、住んでいる地域のハザードマップを配り、自分の家の場所を記入させる。 ・わからない児童には、班の中で教え合うようにさせたり、助言したりする。 ・家の場所と危険箇所を見て、災害が現実的に起こるかもしれないという意識をもたせる。												
・ハザードマップの見方 赤枠：土砂災害特別警戒区域 緑枠：土砂災害警戒区域（がけくずれ） 青枠：土砂災害警戒区域（土石流） 黄枠：土砂災害警戒区域（地すべり） ・予定避難場所		 <上関町ハザードマップ>													

＜ハザードマップで自分の家と危険箇所を確認＞



4 土砂災害から命を守る備えについて考える。

- ・危険な場所を知る。
- ・家族で天気予報を見て最新の情報を確認する。
- ・避難場所を家族で確認しておく。

- ・上関町での土砂災害発生を想定し、どのような備え（自分ができること、しなければいけないこと）が考えられるか、話し合わせる。

- ・「防災教育テキスト」を参考にしながら、グループで話し合い、発表させる。また、机間指導をしながら、友達が気付かないようなことを考えていれば、チェックをしておき、全体で紹介する。
- ・自分でもできることを焦点化し、まとめるよう指導する。
- ・家族と一緒に確認しておくことの大切さに気付かせ、家庭での話題にするよう助言する。

5 本時の学習を振り返る。

- ・今日の学習で考えたことや気付いたことをまとめさせる。

- ・まとめたことを発表させ、課題に対する学習内容を全体で確認する。

＜振り返りの内容＞

- ・今まで知らなかったけど、僕たちの周りにもがけくずれや地すべりの警戒区域があることがわかりました。自分の体は、自分で守るようにしたいです。
- ・土砂災害のことを学習して、私が災害に巻きこまれたら何が起きたかわからないぐらいこわいだろうから、避難場所を家族で決めておきたいと思いました。
- ・意外と、わたしたちの身の回りにも土砂災害で危険な所がたくさんあることを初めて知りました。これからは、もし、危険なことを見つけたら、学んだことを活かして命を守れるようにしたいです。
- ・まず、危険なことがあったら、大人にすぐ伝えます。いつ起こるかだれにもわからないので、テレビ（ニュース）などで知っておくようにします。家族と避難場所を決めておきます。
- ・いつ災害が起こるかかわからないので、早めに備えないといけないことがわかりました。ハザードマップで、避難場所をしっかり確認します。ハザードマップの「危ないところ」以外が100%安全とは限らないから、日頃から備えるようにしようと思います。
- ・土砂災害等は、いつ起こるかかわからないので、いつも警戒をしておいて、避難場所や危険な場所をもっと知っておこうと思いました。家族で避難ルートを確認しておこうと思いました。意外に身の回りに危険は多くありました。

3 今後の取組

「防災教育テキスト」を活用した学習は、児童が防災に対して理解を深め、意識を高めるのに、とても効果的であった。理科学習5年「流れる水のはたらき」の中で実施したので、水の力をより現実的に理解させるとともに、土砂災害が命を奪うことや生活に与える影響が大きいこともしっかり考えさせることができた。その上で「命を守る備え」として自分に何ができるのかを考えさせたが、より効果的にするためには、家庭と連携することが必要だと感じた。今後、大雨の時には、常に備える気持ちを持ち続けるよう指導していく。